《Japan Tariff Association》

関　税　メールプレス

（No. 679） 2023. 2. 17 発行元：日本関税協会 長崎支部

2023年1月分貿易概況〔速報〕

全国の貿易概況〔速報〕

2023年1月分の貿易額は、輸出は自動車、鉱物性燃料等が増加し、6兆5,512億円と対前年同月比3.5%の増加（23ヵ月連続の増加）となった。

また、輸入は石炭、液化天然ガス等が増加し、10兆478億円と対前年同月比17.8%の増加（24ヵ月連続の増加）となった。

その結果、差引額は▲3兆4,966億円と18ヵ月連続の赤字となった。

長崎税関管内の貿易概況〔速報〕

（資料提供：長崎税関）

＜ 輸出：6ヵ月連続のマイナス＞

船舶類、科学光学機器などが増加したものの、再輸出品、化学製品などが減少し6ヵ月連続のマイナス

356億95百万円（前年同月比▲3.4%）

＜ 輸入：22ヵ月連続のプラス＞

生ゴム、一般機械などが減少したものの、鉱物性燃料、穀物及び同調製品などが増加し22ヵ月連続のプラス

2,690億76百万円（前年同月比2.1倍）

◎長崎税関管内港別貿易額[2023年1月分]

※前年同月（期）比 １０％以上の増減 があったものは青字（増加）、赤字（減少）で表示（**単位：百万円**）

区　分	輸　出				輸　入			
	当月分	前年同月比	累　計	前年同期比	当月分	前年同月比	累　計	前年同期比
管内合計	35,695	96.6%	35,695	96.6%	269,076	2.1倍	269,076	2.1倍
長　崎	1,442	31.0%	1,442	31.0%	12,265	2.9倍	12,265	2.9倍
長崎空港	－	－	－	－	0	全減	0	全減
佐世保	14,826	160.1%	14,826	160.1%	51,969	173.1%	51,969	173.1%
三　池	13,784	160.1%	13,784	160.1%	5,492	190.1%	5,492	190.1%

区　分	輸　　出				輸　　入			
	当月分	前年同月比	累　計	前年同期比	当月分	前年同月比	累　計	前年同期比
八　　代	1,383	129.9%	1,383	129.9%	9,687	2.2倍	9,687	2.2倍
熊　　本	956	99.6%	956	99.6%	1,024	101.0%	1,024	101.0%
三　　角	358	81.5%	358	81.5%	9, 218	12.0倍	9, 218	12.0倍
水　　俣	127	107.5%	127	107.5%	2,120	113.0%	2,120	113.0%
熊本空港	―	―	―	―	－	－	－	－
鹿　児　島	743	7.3%	743	7.3%	156,821	2.3倍	156,821	2.3倍
鹿児島空港	6	2.4倍	6	2.4倍	－	－	－	－
志　布　志	1,127	108.5%	1,127	108.5%	17,774	116.6%	17,774	116.6%
川　　内	898	146.4%	898	146.4%	2,070	151.3%	2,070	151.3%
枕　　崎	44	2.8倍	44	2.8倍	636	79.1%	636	79.1%

※長崎港には松島港を含む。　※佐世保港には松浦港及び福島港を含む。※鹿児島港には喜入港を含む。

為替レート：税関長公示レートの平均値

2023年1月平均：132．08円／ドル　【前年同月（114．82円／ドル）比　15．0%の円安】

特集

令和５年２月17日
長　崎　税　関

長崎県からの活ブリ輸出が好調！

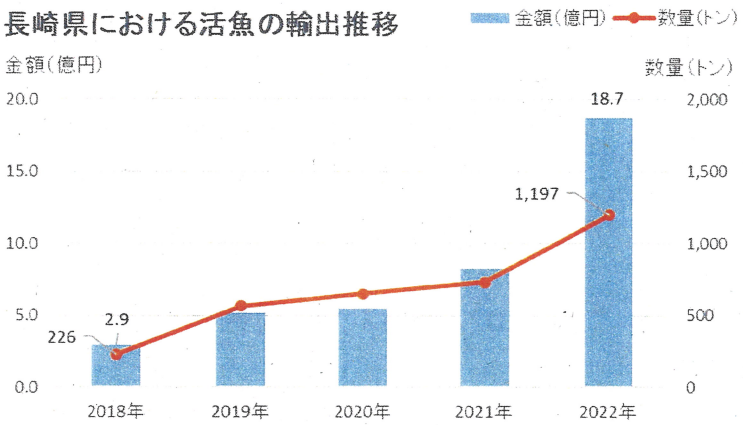
～ 2022 年の活魚輸出額は過去最高 ～

1. はじめに

長崎県は、九州の西北部に位置し、広大な大陸棚を有する東シナ海に面し、島・半島が多く、全国でも有数の水産県となっています。恵まれた環境を生かした養殖業も盛んであり、ブリ、クロマグロ、マダイなどが生産されています。

このような中、長崎県からの活魚の輸出額が過去最高となりましたので、今回、取り上げてみました。

2. 長崎県における活魚の輸出動向

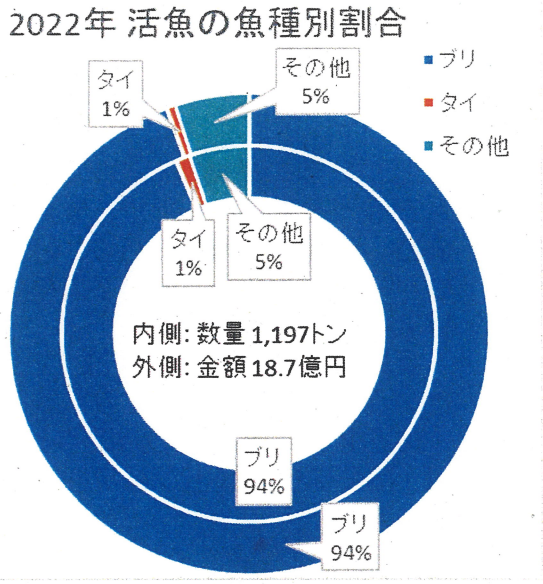


長崎県における活魚の輸出推移を過去 5 年間で見ますと、数量では、2018 年の 226 トンから 2022 年には 1,197 トンで５倍、金額では、2018 年の 2.9 億円から 2022 年には 18.7 億円の６倍と大きく伸びており、金額ベースでは過去最高となりました。

3. 2022年 活ブリの輸出額は、過去最高！

2022 年における長崎県の活魚輸出のうち、活ブリの数量は 1,120 トン、金額は 17.6 億円で、活魚に占める割合は、数量・金額ともに 94%でした。

活ブリの統計品目番号は、2022 年の品目改正において新たに設定されたものであり、2021 年以前については、活ブリ単独での輸出実績は分かりませんが、2021 年以前の金額ベースにおいて、活魚全体で最も多かったのは 2005 年の 9.6 億円であり、2022 年の活ブリの金額がこれを超えていたことから、活ブリの輸出額は過去最高だったとしております。



（注1）　本特集において、活魚とは、統計品目番号 03.01 についてまとめたものである。
（注2）　活ブリとは、統計品目番号 0301.99-200〔ぶり（セリオーラ属のもの）〕についてまとめたものであり、当該統計品目番号は 2022 年の統計品目改正により、新たに設定されたものである。そのため、2021 年以前の活ブリの実績は、0301.99-900（2002 年～2021 年）、若しくは 0301.99-000（2001 年以前）に含まれ、個別の集計はできない。
（注3）　長崎県の数値は、長崎税関本関、佐世保税関支署、長崎空港出張所及び門司税関厳原税関支署における通関数量、通関金額の合計である。
（注4）　本特集において、「過去最高」とは、比較可能な 1988 年以降の実績である。
（注5）　2022 年分は、確報値である。

4. 活ブリの輸出相手国

2022 年における長崎県からの活ブリ輸出は、数量が 1,120 トン、金額が 17.6 億円となっており、その全てが韓国に輸出されています。

また、全国においても、2022 年の活ブリの輸出相手国は、韓国のみとなっています。

ブリは、フィレなどに加工された状態で輸出されることが多いのですが、韓国では活魚を刺身で食べる習慣があり、活魚の形態による輸出が多かったのではないかと考えられます。

5. 全国との比較

2022年　活魚輸出の長崎県と全国の比較

	全国		長崎県			
	数量（トン）	金額（億円）	数量（トン）	全国シェア	金額（億円）	全国シェア
活魚	9,400	180.9	1,197	13%	18.7	10%
活ブリ	2,440	35.8	1,120	46%	17.6	49%

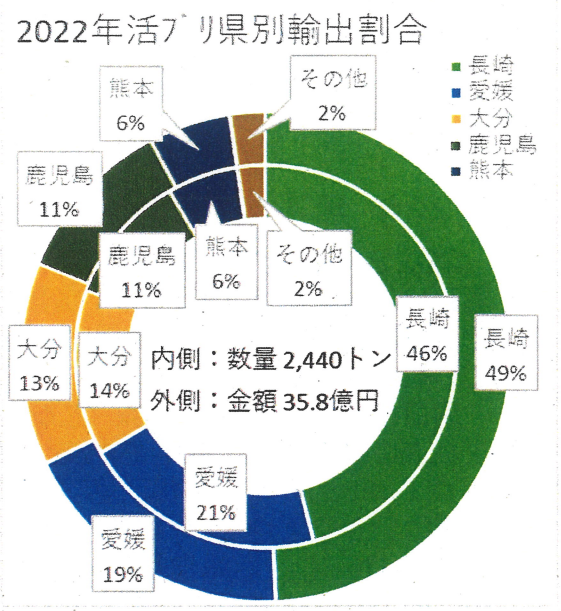
2022 年における全国の活魚全体の輸出は、数量が 9,400 トン、金額が 180.9 億円となっており、そのうち、長崎県が占める割合は、数量が 13%、金額が 10%となっています。

一方、活ブリについては、全国の数量が 2,440 トン、金額が 35.8 億円のうち、長崎県の占める割合は、数量が 46%、金額が 49%であり、その比率は大きくなっています。

6. 活ブリの県別輸出実績

2022 年における活ブリの県別輸出実績を見ますと、長崎県が、数量で 46%、金額で 49%を占め、いずれも 1 位でした。

以降の順位を見ますと、愛媛県、大分県と続いています。



7. おわりに

2022 年の長崎県における活ブリ輸出は、過去最高となりましたが、業界の方に話をお聞きしますと、需要もあり、特段の変化がなければ、今後も高い水準で推移していくのではないかということです。

長崎県では、「ながさきBLUE エコノミー」という、SDGｓに基づく取り組みを産学官が一体となって実施していこうとしており、今後、養殖ブリの輸出が益々増えることが期待されます。

（資料）農林水産省資料、各種報道等による

～～～ 本資料についてのお問い合わせ ～～～

長崎税関 調査部 調査統計課　☎095-828-8659（直通）
〒850-0862 長崎市出島町 1 番 36 号
長崎税関ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.customs.go.jp/nagasaki/

※本資料を他に転載するときには、長崎税関の資料による旨を必ず注記して下さい。